

平成31年3月26日

中部圏広域地方計画協議会 幹事会

中部の地域づくりの進捗状況を公表します ～中部圏広域地方計画「平成30年度の取組み」～

中部圏広域地方計画においては、計画の実効性を高め、着実な推進を図るため、毎年度、5つの方針と10のプロジェクトの進捗状況をモニタリングすることとしています。

今般、計画策定後の3年目のモニタリングとして「平成30年度の取組み」をとりまとめましたのでお知らせします。

とりまとめは、下記アドレスの中部圏広域地方計画（中部地方整備局ホームページ内）の「■中部圏広域地方計画の推進 ○計画の進捗管理」に掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

アドレス：<http://www.cbr.mlit.go.jp/kokudokeisei/index.htm>

<平成30年度の取組みの例>

方針1「世界最強・最先端のものづくりの進化」

イノベーション人材の育成、自動運転の実証実験、航空機産業における販路開拓支援、東海環状自動車道一部開通 等

方針2「スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引」

リニアを活かしたターミナル駅・中間駅周辺のまちづくり検討、観光ルートの多様化、わかりやすい標識 等

方針3「地域の個性と対流による地方創生」

農業ビジネス人材の育成、「道の駅」を拠点とした自動運転の実証実験 等

方針4「安全・安心で環境と共生した中部圏形成」

南海トラフ地震の備え、国立公園の保全活動、建設業の生産性向上 等

方針5「人材育成と共助社会の形成」

UIJターン支援、女性の活躍、外国人防災リーダー育成 等

【添付資料】：中部圏広域地方計画 平成30年度の取組みの一例（本編からの抜粋）

【配布先】：中部地方整備局記者クラブ、東海交通研究会、名古屋港記者クラブ、長野県庁内会場
岐阜県政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、三重県政記者クラブ・三重第二県政記者クラブ、
静岡市政・経済記者会、浜松市政記者クラブ、名古屋市政記者クラブ

【問合せ先】：中部圏広域地方計画協議会 事務局（中部圏広域地方計画推進室）

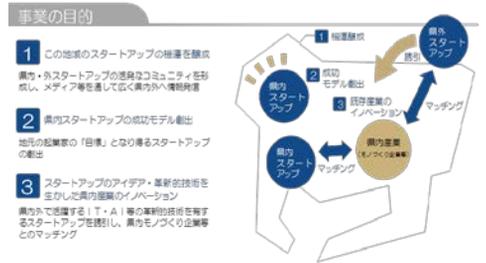
国土交通省中部地方整備局企画部 広域計画課長 兵藤、課長補佐 折戸
TEL052-953-8129

方針1 世界最強・最先端のものづくりの進化

【プロジェクト1】ものづくり中部・世界最強化プロジェクト

取組事例 ■ Aichi-Startupの推進【愛知県】

- 自動車産業を始め、愛知県の産業が引き続き競争力を維持し、日本、そして世界をリードしていくために、スタートアップを起爆剤とする新たなイノベーションの創出に、地域が一体となって取り組むことが重要。
- 平成30年4月に、愛知県が主導して大学、金融機関、民間企業、経済団体、行政等の地域の関係者の参画を得て「Aichi-Startup推進ネットワーク会議」を設立し、スタートアップ支援施策をとりまとめ、地域の総合戦略となる「Aichi-Startup戦略」を策定。
- また、戦略の策定に合わせて、スタートアップの分野で先駆的な取組みを行っている名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、名古屋商科大学等を運営している栗本学園と、それぞれ、スタートアップ支援に関する連携協定を締結。
- 10月31日に、名古屋大学NICにおいて「Aichi-Startup戦略発表会」を開催。



■ あいちアクセラレーター2018事業目的

取組事例 ■ イノベーション人材の育成【中部経済連合会】

- (一社)中部経済連合会では、AI、IoT、ロボティクス等によって社会・産業構造が変わりつつある状況を踏まえ、中部圏のイノベーションを触発しつづけることを目的とし、人材育成から新規事業開発など社会実装の支援を行うプログラムを展開。

段階	プログラム	2018年												2019年			
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月				
認識	PROGRAM 1 情報提供プログラム「フューチャーコンパス」	PROGRAM 1 フューチャーコンパス															
共創	PROGRAM 2 イノベーションドライバー育成プログラム「ビヨンドザボーダー」	PROGRAM 2 ビヨンドザボーダー															
	STEP 1 ナレッジストレッチ STEP 2 ミライデザイン STEP 3 ビジネス コクリエーション	ナレッジストレッチ > ミライデザイン > ビジネス コクリエーション															
実現	PROGRAM 3 事業開発プロジェクト「ドメインプロジェクト」	PROGRAM 3 ドメインプロジェクト															
	2030年の社会	ドメイン選択 > プロコミュニティ形成 > プロジェクト活動 > 社会実装															

取組事例 ■ イノベーション創出の取組み【中部経済連合会、名古屋市】

- 中部経済連合会と名古屋市は、交流・対流のプラットフォームとなる拠点を共同で設置し、人材育成から新規事業開発など社会実装の支援を行うプログラム等を展開。

1. 拠点の概要

■ 場所
名古屋市中区栄三丁目18番1号
(ナディアパーク・デザインセンタービル 4階)

■ 機能
イノベーションビッグバンを誘発する
交流・対流のプラットフォーム

■ 運営
官民協働運営
→ (一社)中部経済連合会
名古屋市
(株)国際デザインセンター

■ 開設予定日
2019年夏頃



2. 拠点の施設

■ 面積 643 m²

■ 主な施設
フリースペース
セミナースペース
ミーティングスペース
その他 (オープンキッチン、Wi-Fi)



3. 拠点の主な支援プログラム

<(一社)中部経済連合会>
■ 情報提供プログラム「フューチャーコンパス」
世界で活躍する各界のプロを招いた講習会の継続的な継続
■ 人材育成プログラム「ビヨンドザボーダー」
イノベーションドライバー育成プログラムの開催
■ 事業開発プロジェクト「ドメインプロジェクト」
異分野融合チームの研究開発プロジェクトの組成
■ Next30産学フォーラム
次の30年を担う産学の若手による異分野・異業種交流会の開催
■ ベンチャー企業や大学研究者を困む交流イベント

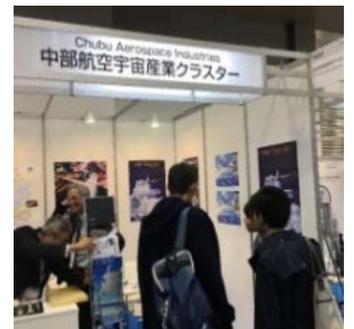
<名古屋市>
■ 中小企業イノベーション創出支援事業
■ NAGOYA BOOST 10000
■ デザインイノベーション促進事業
■ 専門家相談
■ 交流イベントの開催

<(株)国際デザインセンター>
■ デザイン活用の支援

取組事例 ■ 国際航空宇宙展等を活用した販路開拓支援

【中部経済産業局、富山県、石川県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、名古屋市】

- 我が国航空機産業の集積地である中部地域において、コスト競争、アジア各国のサプライヤーの成長など、世界レベルでの熾烈な競争の中、今後拡大する世界の航空機需要を獲得するため、国際航空宇宙展2018東京やエアロマートワールドズへ出展・参加する企業の国内外バイヤーとの商談マッチングに対し、(一社)中部航空宇宙産業技術センター(C-ASTEC)を始めとした知見・経験豊富なコーディネータを活用した、事前準備段階を含めたきめ細やかな支援を実施。
- また、中部地域から参加するクラスターや企業等の出展・商談支援の方策について、中部地域の各県、市、関係支援機関など出展企業を支援する機関が情報交換、連携協議を行うことで、商談マッチング機会の精度向上に努めた。



■ 展示会
中部航空宇宙産業クラスターブース

方針2 スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引

【プロジェクト2】 リニア効果最大化対流促進プロジェクト

取組事例 ■ 名古屋駅のスーパーターミナル化【名古屋市】

平成26年度策定の「名古屋駅周辺まちづくり構想」に位置付けたプロジェクトについて、引き続き関係者と協議・調整を行い、検討を推進。また、駅前広場や高速道路等の交通基盤関連のプロジェクトは、平成30年に公表した「名古屋駅周辺交通基盤整備方針」に基づき検討を推進。

<名古屋駅駅前広場の再整備プラン(中間とりまとめ)の策定>

- 「名古屋駅周辺まちづくり構想」(平成26年)や「名古屋駅周辺交通基盤整備方針」(平成30年)をもとに内容をとりまとめ、駅前広場の再整備の基本コンセプト・東側エリアの再整備の方向性・西側エリアの方向性等を公表。

<リニア駅周辺のまちづくりの方向性(中間とりまとめ)の策定>

- リニア駅上部空間及び周辺街区のまちづくりを進めるための目標とするまちの姿や、取組みについて、方向性を公表。



■名古屋駅のスーパーターミナル化

【プロジェクト3】 新たな観光交流おもてなしプロジェクト

取組事例 ■ 「ふじのくにクルーズ船誘致戦略」による取組【静岡県】

国内外のクルーズ市場の動向を概観するとともに、本県港湾の寄港誘致に向けた課題、強みと弱みの分析等を行い、港の特性に応じた戦略的なクルーズ船の誘致活動を実施。

<効果や進捗>

- 戦略に基づき平成29年7月に立ち上げた全県的なクルーズ船誘致組織「ふじのくにクルーズ船誘致連絡協議会」において、有識者によるセミナーの開催や船社向け広報活動の実施を通じて、各港のクルーズ船誘致の取組みを促進。
- 平成30年の本県へのクルーズ船寄港回数: 35回(見込含む)



■ふじのくにクルーズ船誘致連絡協議会

取組事例 ■ 飛騨地域観光ルート多様化【中部運輸局】

- 飛騨地域を訪れる外国人旅行者の周遊性を向上させ、訪問先の分散・多様化を図るとともに、域内での滞在時間を延長して消費の拡大に繋げることを目的に実証事業を実施。
- 飛騨地域には魅力的な観光スポットが数多く存在するものの、鉄道や乗合バスによるアクセスが困難な場所が少なくない。タクシー利用によりアクセスを改善し、地域に精通した通訳案内士が同乗して観光資源の見どころを多言語案内するといった付加価値の高い着地型観光の商品化を目指し、モデルコースを設定して外国人モニター調査を実施。



■第1回外国人モニター調査
(2018.11.2~3)

方針3 地域の個性と対流による地方創生

【プロジェクト4】 中部圏創生暮らしやすさ実感プロジェクト

取組事例 ■ みえ農業版MBA【三重県】

- 先進的・革新的な農業ビジネスの展開や若者にとって“やりがい”のある質の高い就農の場の創出などができる農業ビジネス人材の育成を目的に平成30年4月に三重県立農業大学校に「みえ農業版MBA養成塾」を開設。
- 平成30年度は1期生2名が入塾し、農業経営学やフードマネジメント学等の座学、法人における雇用型インターンシップなどカリキュラムを着実に実施。
- 雇用型インターンシップ受入法人を拡充(計11法人)するとともに、県内および首都圏等での就農・移住フェアや説明会等のイベントやマスメディアを活用した塾生募集活動を実施。



■インターンシップの様子

取組事例 ■ 「第26回 三遠南信サミット2018 in 東三河」の開催【浜松市】

- テーマ : 「三遠南信流域都市圏の創生～日本の県境連携先進モデル～」
- 開催日 : 平成30年10月29日
- 会場 : 穂の国とよはし芸術劇場PLATほか
- 内容 : 三遠南信地域の住民、大学・研究機関、経済界、行政が一堂に会し、議論を行い、第2次三遠南信地域連携ビジョンの基本合意
- 新ビジョン: 「三遠南信流域都市圏の創生～日本の県境連携先進モデル～」をテーマに、道、技、風土、住、人の5つの基本方針と7つの重点プログラムを設けている。



■第26回 三遠南信サミット2018 in 東三河

【プロジェクト5】 快適・安全安心な生活環境実現プロジェクト

取組事例 ■ ビックデータを用いた生活道路安全対策【静岡市】

清水区入江地区では、生活道路における交通事故が多発していたことから、死傷事故データやETC2.0プローブ情報といった交通ビッグデータと地域住民との現地点検により顕在的、潜在的な課題を多角的に抽出し、交差点ハンプや路肩カラー化等による生活道路対策を実施。

<実施内容>

- 平成29年度には、県内初となる交差点ハンプを用いた実証実験を実施し、効果検証により有効性を確認後、恒久設置を完了。
- 平成30年度は、恒久設置した交差点ハンプの効果を検証するとともに、隣接交差点にて横断歩道を含む交差点ハンプの設置に向け、地域及び関係機関との合意形成を図っている。



■ 協議会の様子

方針4 安全・安心で環境と共生した中部圏形成

【プロジェクト6】 中部・北陸圏強靱化プロジェクト

取組事例 ■ 救出救助・総合啓開分科会を開催【中部地方整備局】

- 南海トラフ地震対策中部圏戦略会議タイムラインを策定し、各機関の災害対応を見える化するとともに、各機関の災害対応において、他機関と連携・調整して対応すべき事項(具体的課題)について、学識者を含めた分科会にて検討。
- 具体的には警察、自衛隊など実動部隊による救出救助活動やDMATによる災害医療活動と、緊急輸送道路の道路啓開や津波浸水の排水作業等との連携のタイミングや事前に調整しておくべき事項について確認。



■ 救出救助・総合啓開分科会

【プロジェクト7】 環境共生・国土保全プロジェクト

取組事例 ■ 生物多様性保全パートナーシップ協定【長野県】

- 長野県希少野生動植物保護条例に基づいて指定した指定希少野生動植物等の保護及び信州の豊かな生物多様性の保全を一部の保護団体や行政だけで支える仕組みから、社会全体で幅広く支えあう新たな仕組みに移行するため、企業や学校など多様な主体を保全活動に呼び込む。



■ 信州の生物多様性保全に係る協定締結式

取組事例 ■ 白山国立公園での原生的生態系の維持・回復【中部地方環境事務所】

- 原生的な生態系の維持又は回復を図るため、外来植物の侵入防止、除去及び普及啓発を行っている。中部地方環境事務所では、関係者間で共通認識のもと、対策の連携を図るため、平成28年2月に「白山生態系維持回復事業に係る実施計画」を策定。また、事業の効果を把握するため「白山生態系維持回復事業モニタリングマニュアル」を作成。
- 今年度、上記実施計画に基づき防除対策、モニタリング、普及啓発を実施し、併せて上記モニタリングマニュアル(暫定版)に基づき調査を実施。
- 具体的には、種子除去マット等の設置や外来植物の除去作業等を実施。



■ 除去作業の様子

【プロジェクト8】 インフラ戦略的維持管理プロジェクト

取組事例 ■ 建設専門工事業合同体験フェア【中部地方整備局】

- 高校、専門校の教諭、生徒を招待し、建設専門工事業のデモンストレーションや実習体験を行うなど、将来の進路を決定するための参考となるイベントを目指すもの。また一般来場者へも公開とし、建設専門工事業について広く知ってもらい、業界への理解を深めてもらう。今年で3回目。
- 開催日は平成30年11月12日(月)9:00~16:00で、メイン会場を「オアシス21銀河の広場」とし、ステージやブースを設置、サブ会場を「栄広場」とし、建設重機を操作できるよう重機を配置。
- 東海4県の高校・専門校6校の生徒240名が12の専門工事業の実習体験を行った。また、一般来場者もステージで披露された職人のデモンストレーションを見たり、ブースで実習体験を実施。



■ 鉄筋の結束の実習体験

方針5 人材育成と共助社会の形成

【プロジェクト 9】 すべての人が輝く「ひとづくり」プロジェクト

【プロジェクト10】 新たな「つながり」社会構築プロジェクト

取組事例 ■ 外国人防災リーダー育成講座【岐阜県】

- 地域やコミュニティ内などで、日本の災害や日本語に不慣れな外国人の方々への啓発や、災害時のサポートなどを担ってもらうことを目的に、県や市町村、地域の国際交流協会、企業等で通訳として働く外国人や、日本語の分かる外国人県民、外国語がわかる日本人等を対象に、災害に対する基礎知識や災害への備え等を学ぶ講座を開催。